

5 病院事業

(1) 事業数及び経営規模

平成30年度における県内の市町村等が経営する病院事業の数は前年度と同数の18事業で、その病院数も前年度と同数の27病院となっている。事業数及び病院数のうち、1事業1病院（女川町）は想定企業会計である。

※ 想定企業会計とは、従前は公営企業会計として特別会計を設置していたが、現在はこれを廃止し、一般会計等において精算及び地方債の償還を行っている場合等において、決算統計上、これに係る一切の収支を一般会計等から分別し、当該事業に係る公営企業会計が設けられているものと想定し、当該想定企業会計において経理されたものとして取り扱っている会計のことをいう。

病院（想定企業会計を除く。）を経営主体別にみると、市営が16病院、町営が6病院、一部事務組合営が4病院となっている。

【市営：7事業16病院】

仙台市、石巻市（2病院）、塩竈市、気仙沼市（2病院）、登米市（3病院）、栗原市（3病院）、大崎市（4病院）

【町営：6事業6病院】

蔵王町、川崎町、丸森町、涌谷町、美里町、南三陸町

【一部事務組合営：4事業4病院】

白石市外二町組合、黒川地域行政事務組合、加美郡保健医療福祉行政事務組合、みやぎ県南中核病院企業団

経営規模別にみると、300床以上は前年度と同数の6病院、200床以上300床未満も前年度と同数の1病院、100床以上200床未満は5病院で前年度に比べ1病院減少、50床以上100床未満は10病院で前年度に比べ2病院増加、50床未満は4病院で前年度に比べ1病院減少となっている。このうち、300床以上の病院は、仙台市立病院（525床）、大崎市民病院本院（500床）、気仙沼市立病院（340床）、みやぎ県南中核病院（310床）、公立刈田総合病院（308床）及び栗原市立栗原中央病院（300床）で、いずれも地域の基幹病院として機能している。

また、地方公営企業法の規定の全部を適用している事業は前年度と同数の7事業（仙台市、塩竈市、登米市、栗原市、大崎市、涌谷町及びみやぎ県南中核病院企業団）、一部を適用している事業も前年度と同数の9事業、指定管理者制度（代行制）導入も前年度と同数の1事業（黒川地域行政事務組合）となっている。

第1表 経営主体別・経営規模別の状況

（単位：病院、床、％）

経営規模	市 営		町 営		一 組 営		計		構 成 比	
	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	
300床以上	4	1,665	0	0	2	618	6	2,283	23.1	54.2
200床以上300床未満	1	258	0	0	0	0	1	258	3.8	6.1
100床以上200床未満	3	461	1	121	1	170	5	752	19.2	17.8
50床以上100床未満	5	402	4	288	1	90	10	780	38.5	18.5
50床未満	3	103	1	38	0	0	4	141	15.4	3.3
計（病院）	16	2,889	6	447	4	878	26	4,214	100.0	100.0
経営形態	全部適用	5	1	1	7	41.2				
	一部適用	2	5	2	9	52.9				
	指定管理者（代行制）	0	0	1	1	5.9				
	計（事業）	7	6	4	17	100.0				

（注）病院数は、年度末現在の数である。

(2) 業務の状況

平成30年度末における病床数は4,214床で、前年度に比べ21床(0.5%)減少している。病院別では、登米市立米谷病院が41床の増床、大崎市民病院鳴子温泉分院が50床の減床、大崎市民病院鹿島台分院が12床の減床を行っている。

患者数は、年延入院患者数が1,112千人で、前年度に比べ11千人(1.0%)減少し、年延外来患者数は1,928千人で、前年度に比べ25千人(1.3%)減少している。また、1病院当たりの1日平均入院患者数は117人で、前年度に比べ1人(0.8%)減少しており、1病院当たりの1日平均外来患者数は301人で、前年度に比べ4人(1.3%)減少している。

病床利用率は72.3%で、前年度に比べ0.3ポイント上昇している。このうち、一般病床利用率は72.9%で、前年度に比べ0.4ポイント上昇している。

平成30年度末における職員数は5,350人で、前年度に比べ28人(0.5%)増加している。

第2表 病床数及び患者数の推移

年 度		26	27	28	29	30	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
項 目					a	b	c	×100(%)
年度末病床数(床) A		4,034	4,128	4,299	4,235	4,214	▲21	▲0.5
年 延 患 者 数 (千人)	入 院	1,046	1,075	1,096	1,122	1,112	▲11	▲1.0
	外 来	2,019	2,026	1,982	1,953	1,928	▲25	▲1.3
一 日 平 均 患 者 数 (人/1病院)	入 院	115	117	117	118	117	▲1	▲0.8
	外 来	328	330	316	305	301	▲4	▲1.3
病 床 利 用 率 (%)		(71.7)	(73.2)	(71.6)	(72.5)	(72.9)	(0.4)	—
		71.4	72.4	71.1	72.0	72.3	0.3	—
年度末職員数(人) B		4,944	5,067	5,267	5,322	5,350	28	0.5
一 床 当 たり 年 度 末 職 員 数 B/A		1.23	1.23	1.23	1.26	1.27	0.01	—

(注)病床利用率欄の()内は、一般病床分である。

(3) 経営状況

ア 損益収支の状況

病院事業の経常収益は978億64百万円、経常費用は1,031億52百万円となっており、この結果、経常収支比率が94.9%となり、前年度に比べ0.7ポイント上昇している。

経常利益が生じた事業は17事業(想定企業会計を除く。)のうち3事業(病院数では26病院のうち6病院)で、前年度から1事業減少(病院数も1病院減少)しており、その額は3億90百万円で、前年度に比べ43百万円(9.9%)減少している。

経常損失が生じた事業は14事業(20病院)で、前年度から1事業増加(病院数も1病院増加)しており、その額は56億79百万円で、前年度に比べ6億26百万円(9.9%)減少している。

経常収益に特別利益を加えた総収益は986億25百万円、経常費用に特別損失を加えた総費用は1,034億92百万円となっており、この結果、総収支比率は95.3%で、前年度に比べ1.0ポイント上昇している。

経常損益に特別損益を加減した純損益をみると、48億68百万円の赤字が生じており、前年度

に比べ赤字が9億33百万円（16.1%）減少している。

累積欠損金を有する事業は16事業（25病院）で、前年度と同数（病院も同数）となっており、その額は952億10百万円で、前年度に比べ47億93百万円（5.3%）増加している。

不良債務を有する事業は3事業で、前年度に比べ1事業増加となっており、その額は19億14百万円で、前年度に比べ5億2百万円（35.6%）増加している。

第3表 病院事業の損益収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目	年 度	26	27	28	29	30	対前年度比較			
							a	b	b - a	(c/a)
									c	×100
総 収 益	A	86,025	91,272	97,067	96,626	98,625	1,999	2.1		
経 常 収 益	B	83,591	89,312	92,735	95,626	97,864	2,238	2.3		
医 業 収 益	C	72,317	78,146	79,362	81,949	83,131	1,182	1.4		
うち料金収入		65,517	70,866	71,927	74,446	75,432	986	1.3		
うち受託工事収益	D	0	0	0	0	0	0	—		
特 別 利 益		2,434	1,960	4,332	1,000	761	▲239	▲23.9		
総 費 用	E	100,801	96,139	99,726	102,426	103,492	1,066	1.0		
経 常 費 用	F	88,579	95,000	98,206	101,498	103,152	1,654	1.6		
医 業 費 用		84,224	89,882	93,120	96,891	98,472	1,582	1.6		
うち職員給与費		38,934	40,105	41,962	43,226	44,098	872	2.0		
支 払 利 息		1,665	1,755	1,652	1,521	1,456	▲65	▲4.3		
特 別 損 失		12,222	1,138	1,520	928	340	▲588	▲63.4		
経 常 損 益		▲4,988	▲5,689	▲5,471	▲5,872	▲5,289	584	▲9.9		
経 常 利 益		55	46	143	433	390	▲43	▲9.9		
経 常 損 失	G	5,043	5,735	5,614	6,305	5,679	▲626	▲9.9		
純 損 益		▲14,776	▲4,867	▲2,659	▲5,800	▲4,868	933	▲16.1		
純 利 益		12	182	2,178	290	739	449	154.6		
純 損 失		14,789	5,049	4,837	6,091	5,607	▲484	▲7.9		
累 積 欠 損 金	H	77,827	82,085	84,798	90,418	95,210	4,793	5.3		
不 良 債 務	I	827	226	496	1,412	1,914	502	35.6		
経 常 収 支 比 率 B/F		94.4	94.0	94.4	94.2	94.9	0.7	—		
総 収 支 比 率 A/E		85.3	94.9	97.3	94.3	95.3	1.0	—		
医業収益 に対する 割合	経常損失比率 G/(C-D)	7.0	7.3	7.1	7.7	6.8	▲0.9	—		
	累積欠損金比率 H/(C-D)	107.6	105.0	106.8	110.3	114.5	4.2	—		
	不良債務比率 I/(C-D)	1.1	0.3	0.6	1.7	2.3	0.6	—		
総 事 業 数	J	18	18	18	18	18	0	0.0		
経常損失を生じた事業数	K	12	15	15	13	14	1	7.7		
累積欠損金を有する事業数	L	17	16	16	16	16	0	0.0		
不良債務を有する事業数	M	0	2	3	2	3	1	50.0		
総事業数 に対する 割合	経常損失を生じた事業数 K/J	66.7	83.3	83.3	72.2	77.8	5.6	—		
	累積欠損金を有する事業数 L/J	94.4	88.9	88.9	88.9	88.9	0.0	—		
	不良債務を有する事業数 M/J	0.0	11.1	16.7	11.1	16.7	5.6	—		

(注) 不良債務=(流動負債-建設改良等の財源に充てるための企業債-建設改良等の財源に充てるための長期借入金-地方債に関する省令附則第8条の3に係るリース債務(PFI法に基づく事業に係る建設事業費等))-流動資産-翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

イ 資本収支の状況

病院事業の資本的支出は131億39百万円で、前年度に比べ57億1百万円（30.3%）減少している。このうち、建設改良費は53億69百万円で、前年度に比べ50億13百万円（48.3%）減少しており、企業債償還金は76億61百万円で、前年度に比べ3億33百万円（4.5%）増加している。

資本的支出の財源は、外部資金が企業債や他会計出資金等の107億32百万円であり、内部資金（資本的収入が資本的支出に不足する分の補てん財源）が損益勘定留保資金等24億7百万円である。

なお、資本的支出に占める建設改良費の割合は40.9%で、前年度に比べ14.2ポイント低下しており、建設改良のための企業債償還金の割合は57.8%で、前年度に比べ19.2ポイント上昇している。

第4表 病院事業の資本収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目		年 度					対前年度比較	
		26	27	28	29	30	b - a	(c/a)
							c	×100
資本的支出	建設改良費	20,830	20,346	19,452	10,382	5,369	▲5,013	▲48.3
	企業債償還金	5,881	10,317	14,828	7,328	7,661	333	4.5
	うち建設改良費のためのもの	5,447	9,850	11,081	7,271	7,593	322	4.4
	その他	432	1,262	152	1,131	109	▲1,022	▲90.3
	計	27,158	31,926	34,432	18,840	13,139	▲5,701	▲30.3
同 上 財 源	内部資金	2,082	2,904	6,066	3,037	2,407	▲630	▲20.7
	外部資金	25,016	28,960	28,335	15,803	10,732	▲5,071	▲32.1
	企業債	17,861	6,553	8,150	3,602	4,420	818	22.7
	うち建設改良費のためのもの	17,861	6,553	8,150	3,602	4,420	818	22.7
	他会計出資金	4,986	4,693	4,879	5,407	4,414	▲993	▲18.4
	他会計負担金	941	1,001	1,477	1,162	1,352	190	16.3
	他会計借入金	39	0	0	0	0	0	—
	他会計補助金	452	517	82	89	300	211	238.4
	国・県補助金	2,687	14,692	13,677	5,406	132	▲5,274	▲97.6
	繰越事業財源(▲)	103	57	56	0	0	▲0	▲57.1
計	27,097	31,864	34,402	18,840	13,139	▲5,701	▲30.3	
財源不足額		61	62	30	0	0	0	—
当年度同意等債で未借入又は未発行の額		0	0	0	0	0	0	—
実質財源不足額		61	62	30	0	0	0	—

(注) 1 内部資金=補てん財源合計額-前年度からの繰越工事資金+固定資産売却代金

2 外部資金=資本的支出額-(内部資金+財源不足額)

ウ 料金収入の状況

料金収入（入院・外来収益）は754億32百万円で、前年度に比べ9億86百万円（1.3%）増加している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院収益が4万5,161円で、前年度に比べ1,147円（2.6%）増加しており、外来収益が1万3,086円で260円（2.0%）増加している。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師1人当たりでは26万6,535円で12,720円（4.6%）減少しており、看護部門1人当たりでは5万7,780円で115円（0.2%）減少している。

第5表 料金収入の状況の推移

（単位：円、%）

年 度	項 目	26	27	28	29	30	対前年度比較	
							b - a	(c/a) × 100
							c	× 100
料 金 収 入（百万円）		65,517	70,866	71,927	74,446	75,432	986	1.3
内 訳	入院収益（百万円）	43,078	46,387	47,454	49,399	50,205	806	1.6
	外来収益（百万円）	22,439	24,479	24,473	25,047	25,228	181	0.7
患者1人1日 当たり診療 収 入	入 院	41,198	43,162	43,293	44,014	45,161	1,147	2.6
	外 来	11,116	12,085	12,347	12,826	13,086	260	2.0
職員1人1日 当たり診療 収 入	医 師	276,894	286,933	277,363	279,255	266,535	▲12,720	▲4.6
	看護部門	54,225	55,867	55,625	57,895	57,780	▲115	▲0.2

エ 他会計繰入金の状況

他会計からの繰入金（借入金を含む。）は、収益的収入（特別利益を含む。）に計上される繰入金が142億63百万円、資本的収入に計上される繰入金が60億66百万円、合わせて203億29百万円で、前年度に比べ5億21百万円（2.5%）減少している。

収益的収入に計上される他会計からの繰入金の総収益に対する割合は14.5%で、前年度に比べて0.2ポイント低下しており、資本的収入に計上される他会計からの繰入金の資本的収入合計に対する割合は56.5%で、前年度に比べ14.4ポイント上昇している。

病床1床当たりの他会計からの繰入金は482万4千円で、前年度に比べ9万9千円（2.0%）減少している。

第6表 他会計からの繰入金の状況の推移

（単位：百万円、%）

項 目		年 度	26	27	28	29	30	対前年度比較		
								a	b	b - a c
他 会 計 か ら の 繰 入 金	収 益 的 収 入 A		12,295	13,002	13,147	14,193	14,263	70	0.5	
	う ち	負 担 金		9,184	9,474	10,334	10,935	11,074	139	1.3
		補 助 金		2,301	2,326	2,799	2,852	3,152	300	10.5
		資 本 費 繰 入 収 益		0	0	0	0	0	0	—
		特 別 利 益		810	1,202	14	405	36	▲369	▲91.1
	資 本 的 収 入 B		6,418	6,212	6,438	6,658	6,066	▲592	▲8.9	
	う ち	出 資 金		4,986	4,879	4,879	5,407	4,414	▲993	▲18.4
		負 担 金		941	1,477	1,477	1,162	1,352	190	16.3
		借 入 金		39	0	0	0	0	0	—
		補 助 金		452	82	82	89	300	211	238.4
	計 (A+B) C		18,713	19,214	19,585	20,850	20,329	▲521	▲2.5	
総 収 益 D		86,025	91,272	97,067	96,626	98,625	1,999	2.1		
資 本 的 収 入 E		25,018	29,145	29,600	15,817	10,732	▲5,085	▲32.1		
繰 入 率	総収益に対する繰入率 A/D		14.3	14.2	13.5	14.7	14.5	▲0.2	—	
	資本的収入に対する繰入率 B/E		25.7	21.3	21.8	42.1	56.5	14.4	—	
一 床 当 た り 繰 入 金	収 益 的 収 入 (千円)		3,055	3,150	3,058	3,351	3,385	33	1.0	
	資 本 的 収 入 (千円)		1,595	1,505	1,498	1,572	1,439	▲133	▲8.4	
	計 (千円)		4,649	4,655	4,556	4,923	4,824	▲99	▲2.0	

※ 一床当たり繰入金 = $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{年度末病床数}}$

オ 職員給与費の状況

職員1人当たり平均給与月額、医師が148万8,585円、看護師が46万6,114円、准看護師が46万6,801円、事務職員が49万3,094円、その他の職員が43万6,988円、全職員平均では56万5,596円で、前年度に比べ453円(0.1%)減少している。

第7表 職員別給与(平均給与月額)の状況の推移

(単位:円、%)

項目	年 度					対前年度比較	
	26	27	28	29 a	30 b	b - a c	(c/a) ×100
医 師	1,474,765	1,331,146	1,495,558	1,511,160	1,488,585	▲22,575	▲1.5
看 護 師	455,366	447,856	452,926	461,701	466,114	4,413	1.0
准 看 護 師	441,987	449,261	459,561	442,443	466,801	24,358	5.5
事 務 職 員	534,016	517,497	521,654	500,994	493,094	▲7,900	▲1.6
そ の 他 職 員	418,239	429,740	427,036	431,962	430,698	▲1,264	▲0.3
全 職 員	560,046	546,584	560,330	566,049	565,596	▲453	▲0.1

(注)1 管理者及び臨時職員を除く。

2 平均給与月額=(基本給+手当)/年間延職員数

カ 業務量の状況

職員1人当たりの患者数は568人で、前年度に比べ10人(1.7%)減少しており、職員1人当たりの料金収入は1,410万円で、前年度に比べ11万1千円(0.8%)増加している。

病床100床当たりの職員数は、医師が17.4人、看護部門職員が87.2人、全職員では149.1人で、前年度に比べ2.9人(2.0%)増加している。

第8表 職員業務量の状況の推移

項目	年 度					対前年度比較		
	26	27	28	29 a	30 b	b - a c	(c/a) ×100(%)	
職員1人当たり患者数(人)	618	611	584	578	568	▲10	▲1.7	
職員1人当たり料金収入(千円)	13,214	13,967	13,641	13,988	14,100	111	0.8	
病床100 床当たり	医 師(人)	16.2	16.4	17.3	17.2	17.4	0.2	1.2
	看 護 部 門(人)	84.6	86.8	84.3	86.0	87.2	1.2	1.4
	全 職 員(人)	136.6	144.4	142.2	146.2	149.1	2.9	2.0

キ 材料費の状況

薬品等の医療材料費は176億70百万円で、前年度に比べ31百万円(0.2%)増加している。これを料金収入に対する割合で見ると23.4%で、前年度に比べ0.3ポイント低下している。

医療材料費のうち、薬品費は90億31百万円で、前年度に比べ10百万円(0.1%)増加しており、患者1人当たりの薬品費は2,971円で、前年度に比べ38円(1.3%)増加している。

第9表 料金収入に対する材料費の状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目		年 度					対前年度比較		
		26	27	28	29	30	b - a	(c/a)	
					a	b	c	×100	
料 金 収 入		65,517	70,866	71,927	74,446	75,432	986	1.3	
医 療 材 料 費		14,893	16,902	17,028	17,638	17,670	31	0.2	
う ち	薬 品 費	7,845	9,375	8,997	9,021	9,031	10	0.1	
	そ の 他 材 料 費	7,049	7,527	8,031	8,617	8,638	21	0.2	
料金収入 に対する 割 合	医 療 材 料 費	22.7	23.9	23.7	23.7	23.4	▲0.3	—	
	う ち	薬 品 費	12.0	13.2	12.5	12.1	12.0	▲0.1	—
		そ の 他 材 料 費	10.8	10.6	11.2	11.6	11.5	▲0.1	—
患者1人当たり薬品費(円)		2,560	3,024	2,923	2,933	2,971	38	1.3	